

囲碁にまつわる言葉 【駄目】

今回は【駄目】の考証です。その前に【駄】という漢字についてです。広辞苑によりますと【駄】は、馬という偏と、太いまたは大きいという旁（つくり）から成ります。これらを組み合わせると「体の大きな馬」。実は「荷物を運ぶ馬」を意味します。それが転じて「乗馬にならぬよくない馬」など、「名詞に冠して粗悪の意をあらわす」とあります。子どもの持つ小銭程度で買える菓子が駄菓子、質の低い馬が駄馬、出来の良くない作品は駄作、洒落にならないような表現は駄洒落など、不出来といった按配となります。子どもに僅かに与える駄賃という言葉もあります。

----- 【駄目】 -----

「価値がない」の意の「ダメ」は、囲碁用語から転じたものといわれます。漢字では「駄目」、囲碁では多くの場合、カタカナ表記を使います。「ダメ」は石の周囲または相手の地との境界にあって、双方の地に属さない空点で、ここに石を打っても地は増えません。終局後、相手と交互に石を埋めあいます。地になりそうにない実質のない着点を「ダメ場」と呼びます。

「ダメ」はその他に、やっても甲斐のないこと、何の役にも立たないこと、してはいけないこと、等の意味があります。子どもに「それは駄目よ、」とって教えるのも同じ意味です。「駄目を出す」は、注文を出すとか、仕事のやり直しを命じることです。「駄目を押す」は、くどくどと念を押ししたり、後腐れないようにする行為です。



囲碁ではダメが多く詰まると、後々様々な面で不利益を生じます。一般になるべく無駄なダメは詰めない方がよいといわれます。この不利益を生じる状態を「ダメツマリ」と呼ばれます。

(2023年6月1日 大和田囲碁同好会 成田 滋)